

～板付弥生のムラだより～

→ 実りの秋がやってきました

市は、昭和51(1976)年に国の
史跡に指定された板付遺跡を、平
成4(1992)年から「板付遺跡弥生の
ムラ」として公開し、さまざまなイベントを
開催しています。



土器づくり

9月15日の「土器づくり体験教
室」では、約30名の参加者が思
い思いの土器を製作しました。

10月27日(土)には「秋祭り」を開催します。
この日は、6月に田植えをしたイネを収穫し、豊作
に感謝します。

事前申し込みは不要で、どなたでも参加できま
す。稲刈りや脱穀作業のほかにも、火起こし、まが
玉づくりなど、弥生時代のくらしを体験することが
できます。また、餅つきや輪投
げ、地域の方々による飲食・物
販ブースも出店予定です。



昨年の「秋祭り」

黄金色に色づいた板付弥生の
ムラの田んぼで、皆さんのお越し
をお待ちしています。

板付弥生のムラ 秋祭り

日 時	平成30年10月27日(土) 10:30～13:00
場 所	板付遺跡 (博多区板付3-21-1)
アクセス	西鉄バス29・40系統「板付団地第二」バス停下車 徒歩 3分

→ 10・11月のイベント情報

10月

- 1,4,8,9日 能古島白鬚神社おくんち行事 (市無形民俗文化財)
場所: 白鬚神社 (西区能古719)
- 9日 飯盛神社流鏝馬行事 (市無形民俗文化財)
場所: 飯盛神社 (西区大字飯盛609)
- 14日 香椎宮奉納獅子楽 (県無形民俗文化財)
場所: 香椎宮 (東区香椎4-5-21)
- 20日 埋蔵文化財センター考古学講座 第5回
「動物埴輪が伝える古代の儀礼」講師: 小泉玲子氏
いっちゃんけんもんほつちく
- 21日 一朝軒伝法竹 (県無形文化財)
場所: 西光寺 (博多区御供所町6-16)
- 27日 板付弥生のムラ「秋祭り」
場所: 板付遺跡 (博多区板付3-21-1)
- 28日 福岡市民俗芸能公演
場所: 住吉神社能楽殿 (博多区住吉3-1-51)
- 28日 今津人形芝居 (県無形民俗文化財)
場所: さいとびあ (西区西都2-1-1)

11月

- 3日 吉武高木遺跡やよいの風公園「コスモまつり」
場所: 吉武高木遺跡 (西区吉武)
- 17日 埋蔵文化財センター考古学講座 第6回
「馬と信仰—土馬から絵馬まで—」講師: 北條 朝彦氏
- 19日 はやま行事 (県無形民俗文化財)
場所: 奈多公民館 (東区奈多2-13-2)

福岡市 経済観光文化局文化財活用部

住所: 福岡市中央区天神 1-8-1

TEL: 092-711-4666 FAX: 092-733-5537

文化財の保存・管理・活用に関すること

文化財活用課 TEL: 092-711-4666

史跡の整備・活用に関すること

史跡整備活用課 TEL: 092-711-4784

埋蔵文化財の発掘調査・手続きに関すること

埋蔵文化財課 TEL: 092-711-4667

埋蔵文化財の収蔵・保管・分析に関すること

埋蔵文化財センター TEL: 092-571-2921

ホームページ 福岡市の文化財

<http://bunkazai.city.fukuoka.lg.jp/>

Facebook「福岡市の文化財」でも情報発信中!



10.28 住吉神社能楽殿に 市内5つの民俗芸能が集結!

日々の生活のなかで、人々によって演じられ、伝えられてきた
歌や踊りなどの「民俗芸能」。普段はそれぞれの季節や場所で
演じられていますが、今回、市内5つの民俗芸能が、住吉神
社能楽殿に集結します。

民俗芸能がこの先も伝承されるためには、保存団体の努力
のみならず、周りの人々の理解や支援が必要です。本公演を
通して、民俗芸能の魅力を広く
市民の皆さんにお伝えし、身近に
ある民俗芸能にも関心を持って
いただきたいと思います。10月28日
は、ぜひ住吉神社能楽殿にお出
かけください!



今宿青木獅子舞
獅子が客席まで下りてくるかも!

福岡市民俗芸能公演

日 時	平成30年10月28日(日) 14:00～(13:30開場)
会 場	住吉神社能楽殿 (博多区住吉3-1-51住吉神社境内)
ア ク セ ス	JR博多駅・地下鉄博多駅より徒歩約10分 西鉄バス「住吉」下車、徒歩約2分
申込み等	当日先着順 事前申し込み不要 定員250人 入場無料 (未就学児も入場可)
演 目	博多松ばやし稚児舞 (博多松ばやし稚児西流) 今宿青木獅子舞 (今宿青木獅子舞保存会) 元岡祇園ばやし (元岡祇園ばやし保存会) 玄清法流盲僧琵琶 (玄清法流盲僧琵琶保存会) 香椎宮奉納獅子楽 (香椎宮奉納獅子楽保存会)

～福岡市民俗芸能公演～

→ 住吉神社能楽殿の魅力

10月28日に開催される「福岡市民俗芸能公演」。

その舞台となる住吉神社の能楽殿は、昭和13(1938)年に福岡の経済界や能楽愛好者らの寄附によって建てられ、住吉神社に奉納されました。以来、全国の能楽師から西日本有数の名舞台として親しまれ、平成12(2000)年には市の有形文化財に指定されました。



住吉神社能楽殿

舞台は総ひのき造りで、日本の伝統的な様式を色濃く残す風格のある作りです。舞台の背面と側面の鏡板には、老松と若竹が描かれています。また、床下には7個の甕が置かれ、音響上の工夫も施されています。



舞台床下の甕

民俗芸能の公演を通して、普段はなかなか内部を見ることができない能楽殿の魅力を感じてみませんか。



→ 掘り出された古の博多展

～重要文化財になって 博多のまちに里帰り～

昨年、博多遺跡群で出土した数万点の遺物のうち2138点が、国の重要文化財に指定されました（歴史の風vol.8・12の記事参照）。

これらの重要文化財は博多遺跡群の代表選手といったところでしょうか。指定後は東京国立博物館の展覧会で、古の博多を存分にPRしてもらいました。博多ではお披露目の機会がありませんでしたので、今回「掘り出された古の博多展」と題した展覧会を開催します。



青花皿



青磁碗

この展覧会では、重要文化財の逸品展示はもとより、発掘調査で明らかになった博多のまちの歴史を紹介していきます。

さらに、博多の遺物に触れて考える参加型講演会なども計画中。乞うご期待です。

「掘り出された古の博多展

—重要文化財になって 博多のまちに里帰り—

期 間	平成30年10月21日（日）～11月11日（日）
場 所	福岡アジア美術館8階交流ギャラリー （博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル）
アクセス	地下鉄中洲川端駅下車すぐ

～埋蔵文化財発掘ミュージアム～

→ 発掘された中世の人々の暮らし 田村遺跡（早良区田村）

今夏、田村遺跡で発掘調査を行いました。この遺跡は、これまでの調査で弥生時代と中世の集落があったことがわかっていました。

今回の発掘調査でも、中世の農村であったことを示す建物跡や水路が見つかりました。建物は、区画された土地に沿って南北に整然と建てられていました。



南北に延びる水路
舟が通れるほど幅が広い。

幅6mの水路はところどころに石が敷き詰められており、これは舟着き場などの足場であったと考えられます。水路から出土した中国製の陶磁器の中には、出荷の際の目印として名前や記号、花押(サイン)が書かれた「墨書土器」も含まれています。博多を通じてもたらされた貴重な交易品が、周辺の地域まで普及していたことが分かります。

この村は11世紀後半に突如現れ、150年ほど続いた後、こつ然と姿を消し、その後一面の水田に変わってしまいます。小さな村どうしがまとまって大きな村になっていく中で、この村はどこか別のところに移ったのでしょうか。

記録には残っていない村の様子や人々の営みを、発掘調査によって明らかにすることができました。

※発掘調査はすでに終了しています。紹介した調査の記録や出土品は整理作業を行い、発掘調査報告書を刊行したのちに埋蔵文化財センターに収められる予定です。